

鹿児島大学病院広報誌

# だより

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部



8号

2008.1



宮之浦岳(屋久島町)

## 《目次》

### 【診療科・部門紹介】

- 》 整形外科・リウマチ外科
- 》 小児外科
- 》 産科、婦人科
- 》 眼科
- 》 顎顔面放射線科

- 整形外科・リウマチ外科から新しい手術のお知らせ
- 薬剤部からのお知らせ
- 安全衛生講演会を開催
- 錦江湾魚ごよみ
- 『おはら祭』に31回目の参加

## 理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

## 基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療を心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

## 患者さんの権利と責務

### 《患者さんの権利》

1. 誰でも良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 人の尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。
3. 医学的な状態、診断、処置その他の個人情報保護されます。
4. 治療・検査の方法、薬の内容等について十分な情報と説明を受け、理解した後、同意・拒否を選択する権利があります。
5. 診療録等に記録された自己の診療内容について、本院の規則により、情報の提供を受ける権利があります。

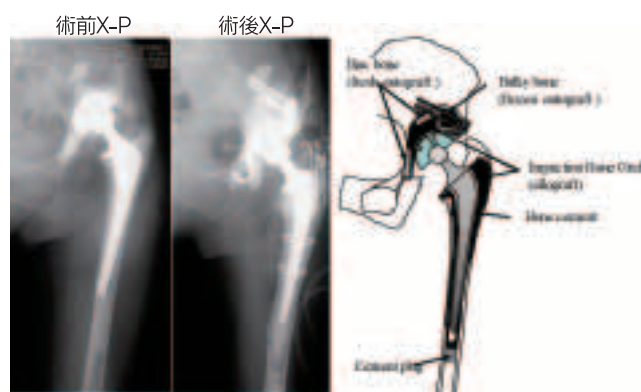
### 《患者さんの責務》

1. 医療従事者が最善かつ適切な診療を行うために、自身の健康状態に関する情報をできるだけ正確に伝える責務があります。
2. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするために、院内の医療の妨げとならないように協力する責務があります。

# 骨と関節の未来に 整形外科・リウマチ外科

整形外科・リウマチ外科は体幹・四肢の運動器(骨・関節・筋肉)を専門とする診療科で疾患は多岐にわたります。私たちは脊椎、股関節、膝・足関節、肩関節や手の外科などの部位別、また骨軟部腫瘍、関節リウマチ、骨粗鬆症、小児整形疾患など疾患別にそれぞれの分野のエキスパートを育成し大学病院のみならず関連病院と連携のもと診療にあたっています。同時に幅広い知識を培うように専門性を越えたディスカッションを重視しています。

また、高齢化社会の到来に伴い生命予後やADLに大きな影響を与える骨粗鬆症や変性疾患への対処が近年重要視され、WHOは2010年までの10年間で「骨と関節の10年」と銘打ちキャンペーンを展開中であり、私たちも最適な人工関節などの開発を目的とし医療関節材料開発講座(寄附講座)を昨年開講いたしました。さらに自家骨移植のみでは対処できない人工関節の再置換術や脊柱変形の手術、腫瘍摘出後の再建術に対し随時他家骨を供給すべく鹿児島骨バンクも間もなく発足します。運動器のことでお困りの方がいらしたらお気軽に声をおかけください。



左THA再置換後、16年の症例で臼蓋、大腿骨とも骨欠損が大の同種骨も用いたIBG (impaction bone graft) にて骨再建し、再置換を行った。

## 整形外科・リウマチ外科から新しい手術のお知らせ

### 腰痛手術に福音～新しい低侵襲手術～

近年急速に進む高齢化社会において、特に腰痛は最も頻度の高い高齢者の外来受診の原因になっています。整形外科・リウマチ外科は運動器の疼痛を除去し機能回復をはかる診療科ですが、腰痛に対しても最新の低侵襲手術を導入し優れた臨床成績を上げています。

腰痛の原因として最も頻度の高い疾患の一つである腰部脊柱管狭窄症は、脊椎の加齢現象で、変形が進むために腰部や下肢に神経痛を生じ、歩行障害を来します。腰椎椎弓形成術として以前から神経圧迫の原因である黄色靭帯や骨棘を切除する手術が行われていましたが、健常組織である筋肉や靭帯を多少損傷するため症状の残存があったり、離床まで時間がかかることも少なくありませんでした。そこで私どもは健常組織を傷つけず安全確実に神経除圧を行う手術を始めました(MILD: Muscle preserving Interlaminar Decompression)。出血もほとんど無く、手術翌日には離床できる優れた低侵襲手術です。

顕微鏡を用い安全な手技で行われるので多くの脊椎外科医に広めることのできる新しい手術と考えています。

今後、さらに様々な低侵襲手術を導入・発展させ、最前線の手術ができ続けるよう私どもは切磋琢磨しています。

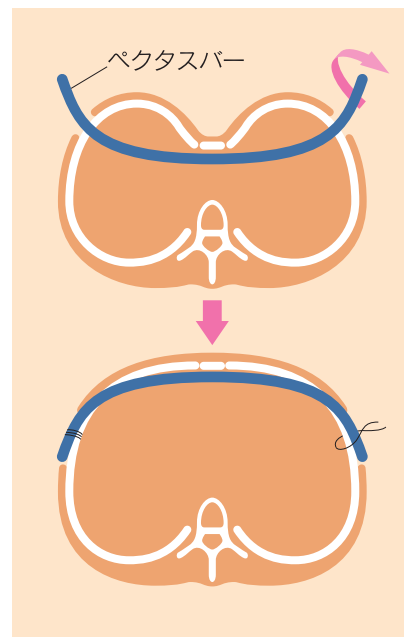


## 小児外科

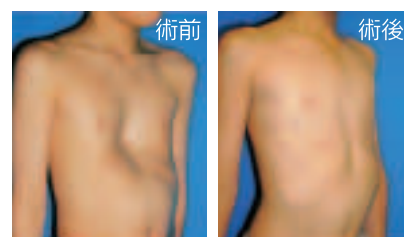
## こどもにやさしい手術を追求して

小児外科は、生まれたばかりの赤ちゃんから16歳くらいまでの患者様を診療する一般外科です。主に頸部、胸部、腹部の病気の診療を行っています。こどもは、大人のミニチュアではありません。解剖学的に小さいだけではなく、生理的にも精神・心理面でも発達段階にあります。大人より大きな体のお子さんでも、臓器の機能や心理・精神面はまだ未熟です。それぞれのこどもの発達段階に応じたケアが大切です。小児外科領域には特有の疾患も多く、診療には専門的な知識と経験が必要です。これから成長、発育して何十年もの長い人生を送る子供たちです。術後の機能、将来のQOLを見越した手術や治療方法の選択が必要です。

大学病院小児外科では、こどもにやさしい手術・治療法に取り組んでいます。例えば虫垂炎では腹腔鏡を用いて手術を行うことで、傷を小さくするだけでなく術後の創感染、遺残膿瘍、癒着性腸閉塞などの合併症を減らすことができました。女兒の鼠径ヘルニア根治術では、オヘソの部分を少し切って腹腔鏡を入れます。ほかに点滴の針穴くらいの傷から特殊な器具を入れて手術をします。ほとんど傷は残りません。ヒルシュスプルング病(先天性巨大結腸症)の多くは、お腹を切らずに肛門からのアプローチだけで根治手術が可能です。傷も痛みもほとんどありません。漏斗胸は、これまで胸の真ん中を大きく切って形成手術が行われていましたが、Nuss法が導入されてからは両脇の小さな傷で手術が可能となりました。術後合併症や再発率も激減しました。日本小児外科学会のスローガンでもある「こどもを安心して預けることができる外科医」の育成に力を入れています。



漏斗胸の新しい治療法



漏斗胸手術前後の外観

## 女性特有の疾患を扱う

鹿児島大学産科、婦人科は腫瘍、周産期、不妊・内分泌、中高年・骨代謝と多岐にわたり女性特有の疾患を扱っています。

悪性腫瘍に関しては婦人科医不足もあり、県内の婦人科悪性疾患の大部分が集中しており、当院手術症例の中心を占めています。良性疾患に関しても全国的な腹腔鏡手術の導入にともない、当院への紹介も増えてきています。県内の腹腔鏡手術認定医が当院に集まり、スタッフも充実してきました。

子宮摘出、卵巣手術、子宮外妊娠等扱っており、子宮外妊娠、卵巣茎捻転(卵巣腫瘍が捻じれて急激な下腹部痛を伴う)においては救急車で一次救急病院より搬送されることが多くなってきています。二次救急病院にて充分対応可能な疾患ですが、腹腔鏡下手術を希望される患者が多く、ほとんどが当院に搬送されているようです。

更年期疾患においては、自律神経検査機械を外来に設置し更年期障害と自律神経の関係を中心に検討し治療にとりこんでいます。周産期においては、合併症妊娠や異常妊娠を中心に管理しており、早産に対してもNICU(新生児集中治療室)を充実させ、対応できるようにしております。

産婦人科医不足のなか、最後の砦として中核病院の役割をはたしています。

## 産科、婦人科



# 眼科

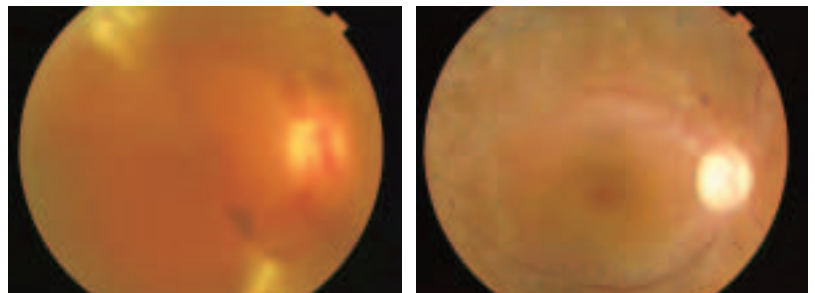
## さらにより良い視力をめざして ～糖尿病網膜症による失明の撲滅へ～

眼が見えることは全ての生活の基本です。例えば、成人後に失明したことを考えていただくと、これは本人や家族の苦労は当然ですが、それに伴う社会的な損失は計り知れません。糖尿病の眼合併症である糖尿病網膜症は、我が国の成人失明原因の最上位をしめ、現在の医療での重要な課題です。しかしながら、以前は絶望的といわれたこの病気も、近年の眼科医療の進歩により、徐々に“失明の予防”から“より良い視力”へと目標が変わりつつあります。

鹿児島大学眼科は、糖尿病網膜症などの主な治療法である「硝子体手術」において、2005年は九州第3位の件数を誇るほどの多くの手術を手がけています。そしてさらに、昨年末からは、倫理委員会の承認のもとに抗血管内皮増殖因子(VEGF)薬を用いた治療を行っています。

糖尿病網膜症にたいする硝子体手術では、最新技術をもってしても、20%近くの患者さんは、実用視力を維持することはできませんでした。ところが、この新薬を用いることで、手術が飛躍的に安全確実になっており、失明に至るケースが著しく減少しています。以下にその例を示します。本法を用いると、手術中の出血や、術後の再出血も抑制するなど、極めて良好な結果を収めつつあります(写真は一例)。

鹿児島大学眼科は、南九州地区から失明者を一人でも減らすだけでなく、患者さんのQuality of Vision(QOV)の向上を目指して、さらに進んだ治療に取り組んでいます。これからも、よろしく願います。



術前

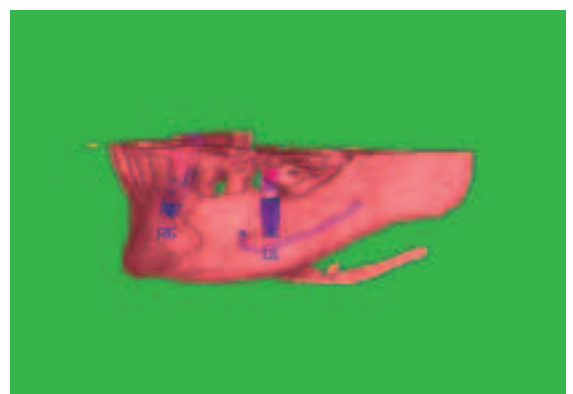
術後

## インプラントシミュレーション ～嚙む喜びとQOLの向上をめざして～ 顎顔面放射線科

当科では、顎顔面領域の様々な検査を行い、総合的な画像診断を主に行っています。最近では、インプラントの需要が高くなってきており、よりよいインプラント治療を行うためにも、術前の正確な検査・診断が重要となっています。

一般にインプラント術前検査としてはオルソパントモグラフィー、断層X線撮影、X線CT撮影等があります。当科では、X線CTを撮影し、そのCT画像データをもとにPC上でインプラント体を埋入するインプラントシミュレーションを行っています。三次元的に任意の方向からインプラントシミュレーションが行うことができるため、多くの情報を得ることができ、よりよい治療計画を設計することができます。

現在では院内のみならず、一般開業医の患者さんのインプラントシミュレーションを数多く行っています。インプラントのためのCT撮影ならびにインプラントシミュレーションについてのご質問がございましたら、顎顔面放射線科(TEL 099-275-6610)へお気軽にお問い合わせください。



インプラントシミュレーションの一例

### かかりつけ薬局って何？ ～病院での待ち時間を減らす方法～

かかりつけ薬局とは、自分の処方せんを持って行って薬を受け取る街の薬局の中で、自分自身で選ぶ信頼できる薬局のことです。その薬局では患者さんごとに現在服用している薬のほか、体質、アレルギー歴、以前起こした副作用などを記録します。したがって、その薬局に行けば、あなた専用の薬に関する履歴書(薬歴)がありますので、安心して薬を飲むことができます。さらに、複数の病院から処方せんが出されても、今飲んでいる薬との飲み合わせや量などをチェックして、必要があれば医師に相談し、細心の注意を払って薬を提供します。もちろん薬についての説明・相談もいたします。

また、寝たきりや一人暮らしで薬局に行けない場合や、透析液のように持ち帰りが困難な薬の場合などは、本人でなくても、ご家族が処方せんを薬局に持って行って良いですし、ご自宅まで薬を届けることも可能です。さらに、かかりつけ薬局に処方せんをファックスで送っておくと、実物の処方せんを薬局に持って行く頃には、薬ができています。したがって、病院での長い薬の待ち時間もなく、患者さんがゆっくり休むことができるようになります。当院には2階エレベーター前に「院外処方せんファクシミリ送信コーナー」が設けてありますので、ぜひご活用ください。



## TOPICS

### 安全衛生講演会を開催

本院では、教職員のメンタルヘルス対策の一助として、本学医学部鶴陵会館大ホールにおいて第2回安全衛生講演会を開催し、約250名の参加がありました。

本院の内宮産業医の開会挨拶に引き続き、大学院の佐野教授から、「職場のメンタルヘルス」と題して、様々なデータに基づき、職場環境の変化等の現状や職場のメンタルヘルスサポートの必要性について説明がなされました。

その後、「笑いやったもんせ！ ストレスと上手付き合ったもんせ」と題して、鹿児島県出身の落語家、三遊亭歌之介師匠の講演がありました。鹿児島の方言でユーモアを交え、会場も笑い声が絶えないとても楽しい講話でした。最後に病院長から、教職員のストレス解消に大きく貢献していただいたとの謝辞が述べられました。



## 海底の草原

鹿児島市街地の北端に位置する鹿児島港の片隅に、稲荷川の河口があります。その近くの海は、コンクリートの護岸や防波堤に囲まれ、灰色の海には生きものの気配は感じられません。しかし、寒さが厳しくなるこの季節、海の中には驚きの風景が広がっています。

海に飛び込むと、目の前に広がるのは、一面の瑞々しい緑の草原です。ここには、錦江湾有数のアマモの群落、「アマモ場」があるのです。その光景は、まるで陸上の草原です。それもそのはず、アマモは、コンブやワカメといった「海藻」とは異なり、花を咲かせ実を結ぶ、陸上の植物に近い「海草」なのです。

アマモ場は、水質を浄化する能力が高いこと、また水産上の重要種と呼ばれるマダイやヒラメをはじめとする、多くの魚介類が幼期を過ごす場所となっていることなど、海の生態系の中で大きな役割を果たしています。

そんな大切なアマモ場ですが、河口付近の浅瀬にあるため、水質汚染や埋め立てなどによって、姿を消しつつあります。鹿児島市街地の目の前、稲荷川河口に残ったアマモ場は、錦江湾の生態系にとってかけがえのない存在なのです。



海底に広がる草原、アマモ場。鮮やかな緑は目に沁みる。  
(水深2m、アマモの長さ1m)

## TOPICS

### 鹿児島大学病院「おはら祭」に31回目の参加

鹿児島の秋を彩る市内最大のイベント第56回「おはら祭」が11月2日、3日の両日にわたって盛大に開催され、鹿児島大学病院も市民との交流を図る絶好の機会に踊り連を結成し、2日の前夜祭に参加しました。

踊り連の参加も今回で31回目となり、教職員で構成された総勢約200名の踊り連は、揃いの法被、浴衣姿で「おはら節」、「はんや節」のリズムにのって「エンヤサー」「ヨイヤサー」と元気な掛け声を響かせて踊り、沿道の観衆から盛んな拍手を浴びました。



総勢200名の鹿児島大学病院の踊り連

### お知らせ

診療科によって初診日が異なりますので、ご確認の上、ご来院ください。  
＜お問い合わせ先＞医務課医療サービス係 TEL 099-275-5143

### ▶ 広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気の一般知識など知っておきたいことがありましたら、お知らせください。  
また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

### 鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより 〈8号〉

2008(平成20)年1月発行  
発行／鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会  
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692  
【鹿児島大学病院ホームページアドレス】  
<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>